

# ポロト湖の懐にひたる、とんがり湯小屋の宿 町とパートナーシップ協定を結ぶ星野リゾートの「界 ポロト」が開業

世界的にも珍しい天然植物由来のモール温泉と、ポロト湖畔の四季折々の自然を楽しめます。建物、客室などは、アイヌ文化を尊重し、多民族共生を体験できるよう設計。アイヌ文化伝承の地として維持されてきた同地から着想を得、チセ（伝統的家屋）内部や屋根を支える丸太組みの三脚構造（ケトウンニ）などが採り入れられています。



全室がポロト湖に面する客室



ポロト湖にせり出す△湯の露天風呂



ポロト湖を大胆に引きこんだロビー  
と奥に見える△湯（さんかくの湯）

<https://hoshinoresorts.com/ja/hotels/kaiporoto/>

## アイヌ民族文化財団と札幌大学が連携協力協定を締結

アイヌ文化の振興、伝統・文化の知識普及・啓発を目指し



協定はアイヌ民族の歴史文化の教育研究を推進する札幌大学（荒川裕生理事長）と、アイヌ文化振興事業とウポポイ（民族共生象徴空間）を運営するアイヌ民族文化財団（常本照樹理事長）が、それぞれの強みを生かして連携・協力することにより、アイヌ文化の一層の復興と発展を図ることが目的です。

1月13日にウポポイで行われた締結式では、荒川、常本両理事長が、「アイヌ文化の担い手の育成」「アイヌ民族および海外先住民族に関する調査・研究」「アイヌ文化の普及・啓発」などを内容とする協定書を交わしました。荒川理事長は「歩みをさらに進める意義深いこと」、常本理事長は「協定を契機にこれまでも札幌大学と行ってきたアイヌ文化の継承・発展という目的を一層豊かで強固なものにしたい」と話していました。



同大は教育研究の中心となっている「(一社)札幌大学ウレシパクラブ」に加え、令和2年度には教育研究成果を基に国内外へ向けた理解促進を図る「アイヌ文化教育研究センター」を設立、4年度には全学生を対象とした教育プログラム「アイヌ文化スペシャリスト養成プログラム・アシリ」を開設する予定です。

### 知っておこう アイヌ文化

## テシマとチンル

イランクラッテ。2月、山はまだまだ雪に覆われていますが、かつて、アイヌ民族の男性はこの季節に山猟を行いました。なぜなら、夏に比べれば、枝葉が茂っておらず、獲物の確認が容易ですし、クマやシカの毛皮は冬の方が上質だからです。しかし、雪の積もった野山を機敏に歩くのは難しいことです。そこで、アイヌ民族が利用したのが、「テシマ、チンル」と呼ばれる2種類のかんじきです。

「テシマ」はアイヌ語でテシ=滑る、マ=泳ぐ、という意味で、雪の上を滑りながら泳ぐものと考えていたことから、この名前が付いたようです。形状は楕円形で、雪深い所で試してみると、確かに足が沈み込むのを緩和し、歩きやすくなります。

もう一つのかんじき、「チンル」は、ひょうたん型の形状で底に尖った角が付いており、春先の表面が凍って硬くなり、滑りやすくなった雪の上を歩くのに活躍します。「テシマ」も「チンル」も、サルナシ（コクワ）のつるが使われ、シカ皮でできた靴「ユクケリ」やサケ皮でできた靴「チェブケリ」とともに使います。

しらおいイオル事務所チキサニでは、2月26日(土)、山のイオル「冬の遊び」を開催し、テシマを使って、雪原を歩く体験を予定しています。詳細は、本紙の「くらし百科 催し イオル体験交流事業」をご覧ください。皆さまの体験へのご参加をお待ちしております。

政策推進課 アイヌ政策推進室 学芸員 森洋輔



山のイオル「冬の遊び」でテシマの履き方を教わる参加者

問い合わせ先：イオル事務所 チキサニ ☎82-6301